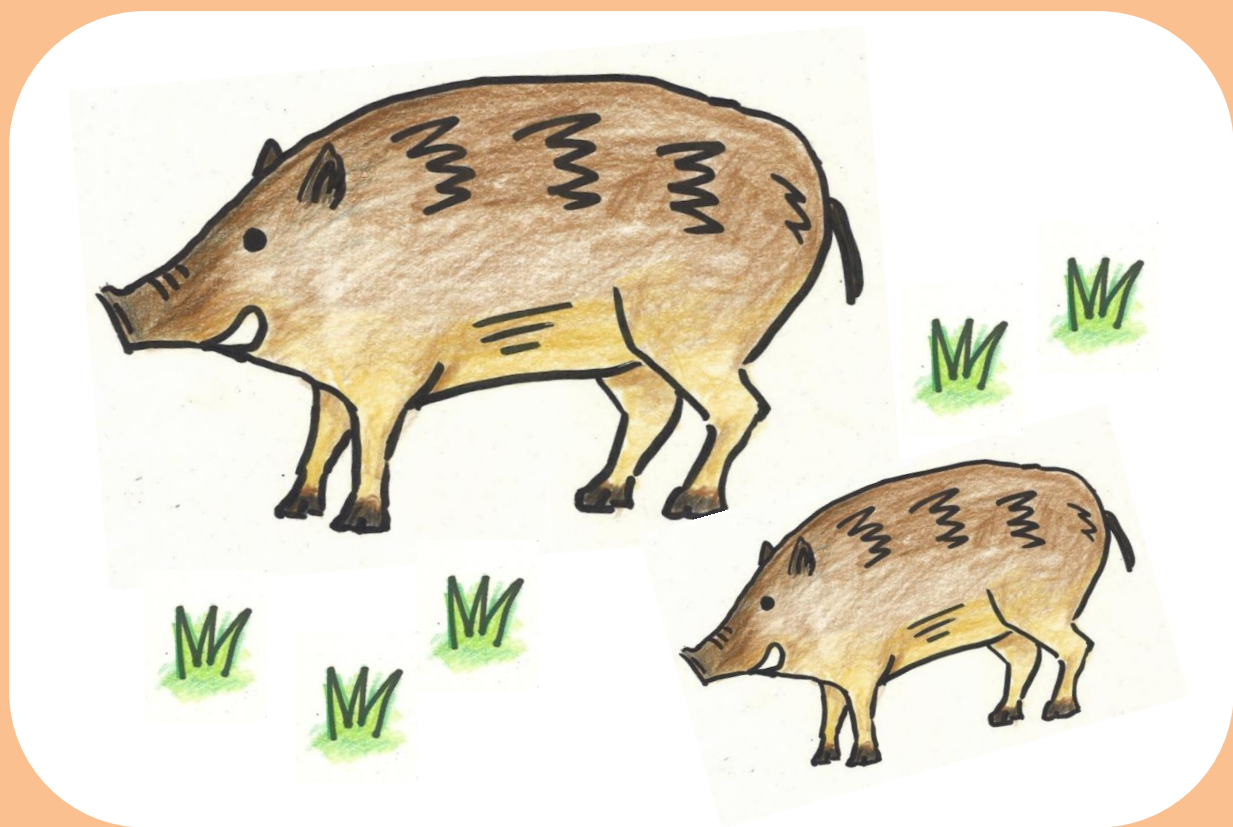


イノシシ侵入防止柵 設置・管理マニュアル



はじめに

近年、有害鳥獣による農作物の被害は中山間地域を中心に深刻化・広域化しています。また、イノシシやサルなどの市街地における目撃情報も、年々増加傾向にあります。

その要因としては、農村の過疎化・生産者の高齢化に伴う荒廃農地の増加や生息区域の拡大、個体数の増加などが考えられます。

有害鳥獣対策は、捕獲等による個体数調整や防護柵・電気柵などによる侵入防止の自衛策の2つに分類することができますが、捕獲等による対策には限界があり、現実的には自衛策を行うことが、有害鳥獣対策として高い効果を発揮しています。

このマニュアルでは、ワイヤーメッシュの効果をより高めるための設置・管理方法などについて紹介していきます。

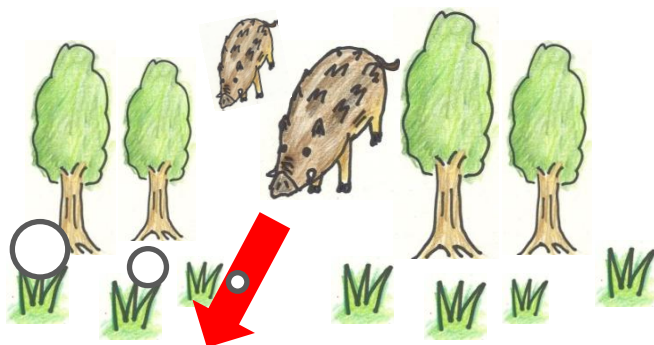
1 ワイヤーマッシュの設置方法について

(1) 農地の特性を知る

傾斜や水路など事前に設置する場所の現状を確認することで、ワイヤーマッシュの効果を最大限に生かしていくことができます。

また、イノシシの侵入路が分かっている場合には、事前に効果的な対策を立てることにもつながります。

侵入経路を
見つけよう！



(2) 共同設置者と協力する

ワイヤーマッシュの設置は、共同で行うことにより、作業に費やす人手を確保することができます。

また、設置後の管理作業は大変重要になりますが、共同で行うことで、負担を分散させることができます。



みんなで協力しよう！

(3) ワイヤーメッシュ設置に使用する道具

- ① 手袋: 金網による怪我防止のため、必ず着用してください。
- ② +ドライバー、ペンチ、ハッカー: 支柱に結束する際に使用
- ③ 鉄製のハンマー(柄部分の短い物、セッタハンマー)
- ④ くわ: 地面を平らにするために使用
- ⑤ メジャー: 支柱の位置確認に使用

※ その他必要に応じた道具を使用してください。

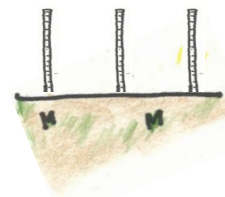


(4) ワイヤーメッシュ設置の方法

- ① 設置予定箇所の地ならし



- ② 支柱の設置

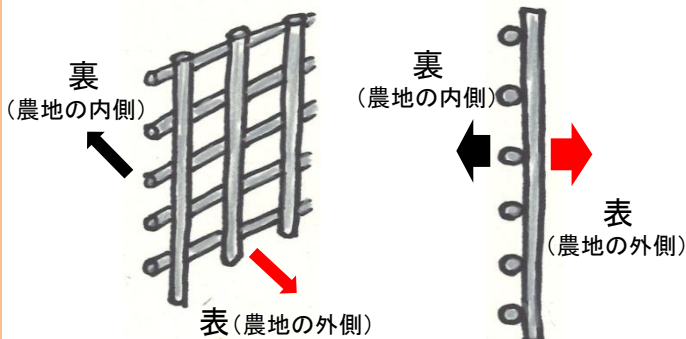


- ③ ワイヤーメッシュの設置



チェック

ワイヤーメッシュの表裏



開閉部に使用すると便利な資材

ホームセンターなどで購入することができます。



カラビナ
(登山などで使用するもの)



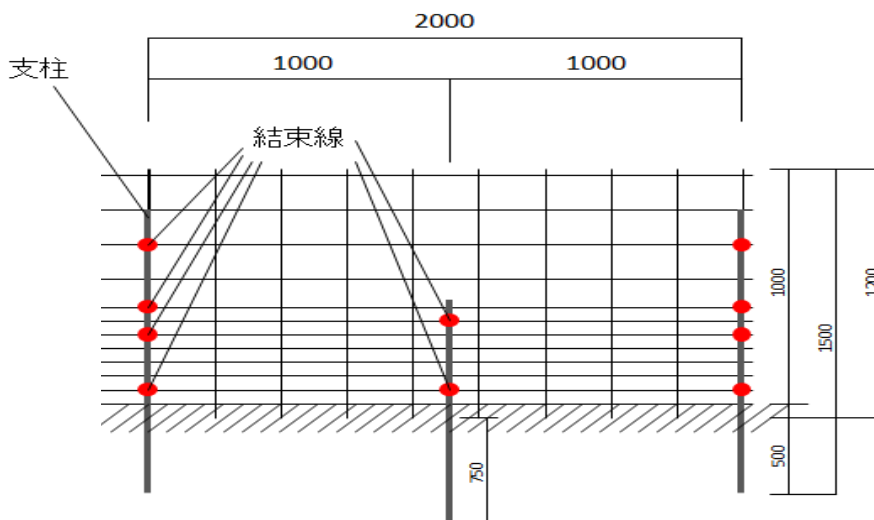
シャックル

○ 資材の数量

(例) 100mあたりの必要資材量

- | | |
|------------|---------------|
| ① ワイヤーメッシュ | 50枚(1枚=2m) |
| ② 支柱 | 100本(1mごとに1本) |
| ③ 結束線 | 300本(支柱の3倍) |

○ 支柱の高さ、結束線の位置



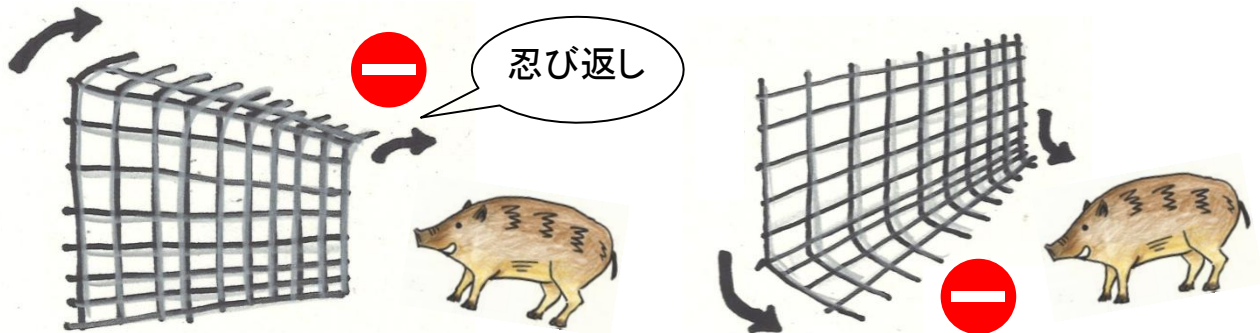
【設置上の注意事項等】

- ※ ワイヤーメッシュは隙間がないように設置をしてください。(隙間があるとそこから侵入する恐れがあります。)
- ※ ワイヤーメッシュは滑りやすいため、運搬等においては落下等がないように十分にご注意ください。
- ※ 設置中のけがには十分に気を付けてください。
- ※ 設置は2人以上で行うと効率的です。

(5) 効果的な対策

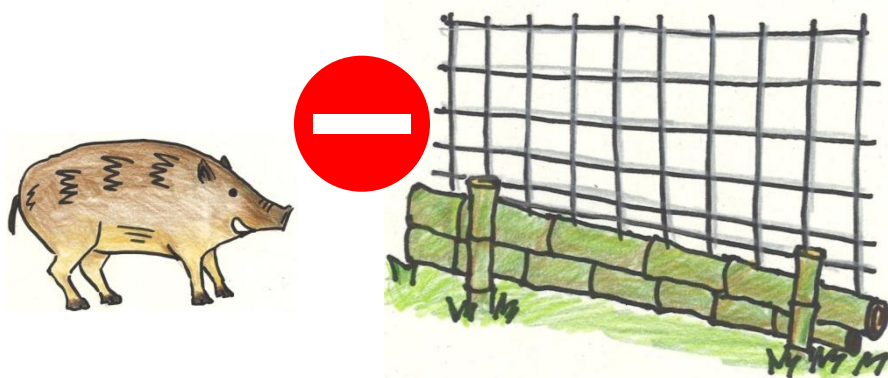
① ワイヤーメッシュ上部や下部を外側へ折り返す

⇒飛び越えや潜り込みによる侵入を食い止める効果があります。



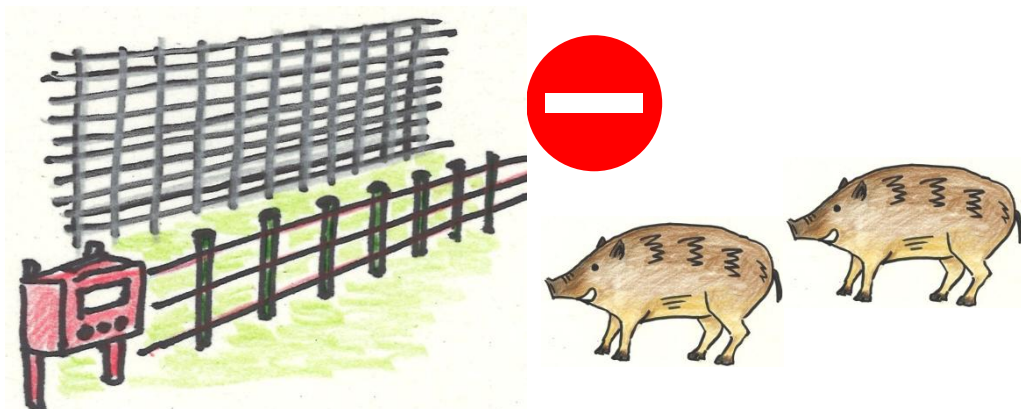
② 竹などによる下部の補強

⇒潜り込みによる侵入を食い止める効果があります。



③ 電気柵との併用(複合柵)

⇒農地への接近を防ぐ効果があります。



2 ワイヤーマッシュの管理について

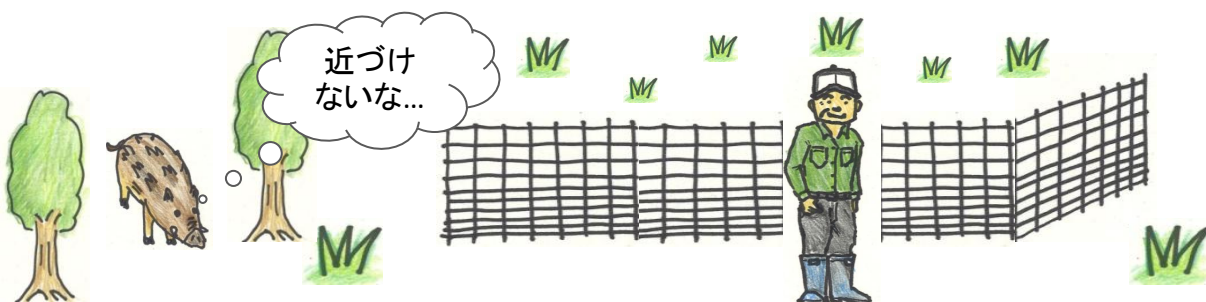
(1) 定期管理について

ワイヤーマッシュの効果を持続させるには、定期点検など日頃の維持管理が大変重要です。

ワイヤーマッシュを設置する際は、定期管理を行いやすいよう、周辺の整備についても考慮しましょう。

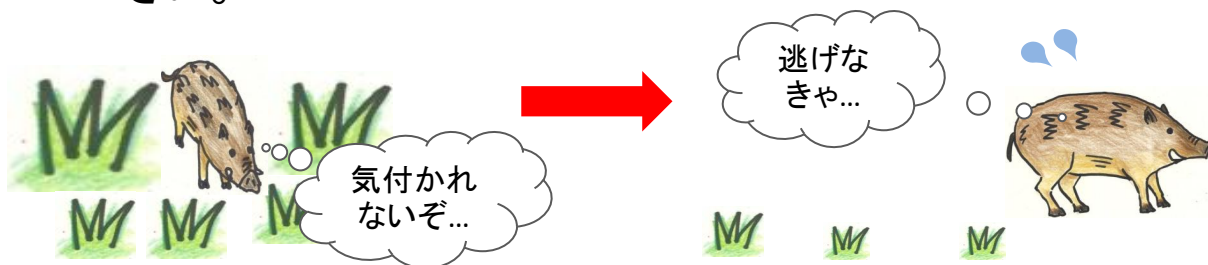
① 定期的な見回り点検

⇒定期的に人間が通ることによってイノシシに警戒心を与えます。また、ワイヤーマッシュの破損などの早期発見につながります。



② 定期的な草刈などの実施

⇒草刈などを行うことで、イノシシの棲みかを無くし、近づきにくい環境を作ります。なお、草刈を行う際は、ワイヤーマッシュに草刈機の刃が当たらないよう注意してください。



(2) イノシシが侵入していたら

定期点検などでイノシシの侵入を確認したら、必ずその部分を補修・補強しましょう。イノシシは同じ場所から侵入する傾向があります。

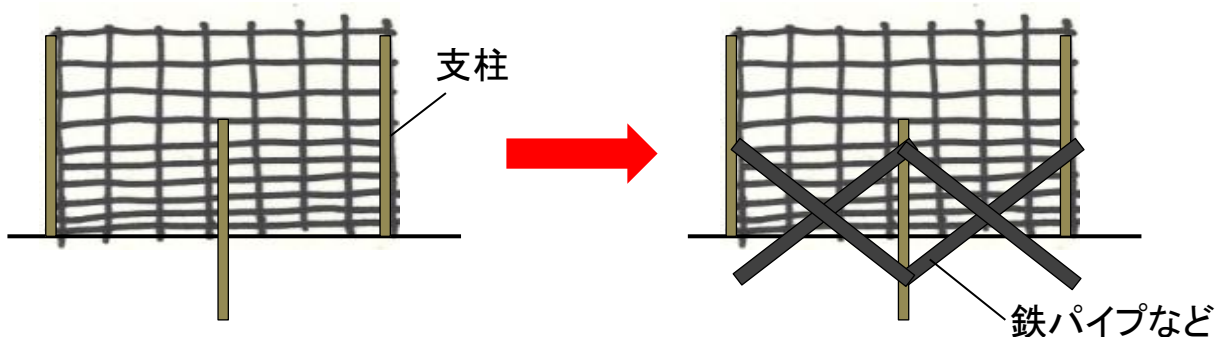
① 必ず補修を行うこと

⇒イノシシは同じ場所から侵入を繰り返すことがあります。侵入経路を発見したら、できる限り早く補修をしましょう。

② 補強を行うこと

⇒補修の際は、侵入していたところに補強を行うことが大切です。補強の方法についていくつか紹介します。

◎ 鉄パイプなどを使用し、支柱に対し斜めに補強をする。



◎ 竹などによる下部の補強



3 野生動物による被害を減らすために

(1) 野生動物を寄せ付けない営農管理

農地周辺には、野生動物のえさとなるものが多く存在します。定期的に農地を含む周辺環境を管理することで、野生動物が近づきにくい環境を作り、またそれを維持していくことが大切です。

① 定期的な見回り点検

⇒定期的に人間が通ることによりイノシシに警戒心を与えましょう。

② 休耕地や耕作放棄地の定期的な管理の実施

⇒放置された農地や竹やぶなどは野生動物のえさ場や棲みかとなります。定期的な草刈などを行うことで、野生動物が近づきにくい・棲みにくい環境を作りましょう。

(2) イノシシの生態を知る

特性

- ・警戒心が強く、臆病
→ただし、慣れると恐れなくなる
- ・犬なみの嗅覚があり、体毛は剛毛
- ・脚力：1m程度
- ・20cm程度の隙間をくぐりぬけることができる。

食性

- ・穀物類、栗などの木の実、昆虫の幼虫、草や木、野菜類、果物類、タケノコなど。

4 その他

被害写真

実際に起きた被害写真です。



集落みんなで協力していくことが何より大切なことです。

イノシシの生態を知り、適切な農地管理や防衛を行い、イノシシ被害を最小限に食い止めましょう。